

第二の人生の小さな一歩



山口眞智子さん

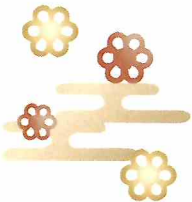
難病を抱えた主人を8年間介護し、経営していた会社を清算、今まで会社のため、主人のために働いてきたので、これからは自分のために働きたいと思い、65歳で入会しました。自分は何ができるかを考えた時、ヘルパーの資格も持っていますが、生まれ育った農家の仕事に近い仕事を選びました。これはきつい仕事だと言われましたが、私は農家の娘ですからなんでもしますと強気で臨みました。入ってみるとチームのみなさんがすごく温かくて、先輩方、仲間たちと人生のいろんなお話が聞けることが本当に楽しみで6年も続いている要因だと思います。お金ではなくいろんな楽しみがあるこの仕事を選んだことは、第二の人生の小さな一歩になったと思います。自分で生活サイクルを作り、毎日楽しく、元気に暮らしているように頑張っていきたい。今が最後までで一番過ごしやすい時間を過ごしていると感じています。

生き甲斐は趣味と身体づくり



長谷川裕子さん

万古焼の仕事をしていたが、火災に遭い廃業に至りました。災禍を乗り越えた後、シルバー人材を知り64歳で入会しました。現在は、直接雇用でパートの仕事をしています。手作りサークルで教えていただきながら編み物や作品作りをしています。サークル活動はずっと続けていきたいです。最近歩こう会にも入り、身体づくりにも前向きな生活を送っています。趣味を生活の中に取り入れて人との関わりを大切に、その輪を広げられたらと思っています。同好会活動をもっとたくさんの方に知っていただきたいと思っています。



シルバーとは高齢者のセーフティネット



吉川 保雄さん

銀行を65歳で退職。一念発起して社会保険労務士の資格を取得しましたが、この資格を活かした再就職はできませんでした。シルバーに入会して工業用水の漏水を巡視する仕事を紹介されました。巡視のコースを覚えるのに一年間苦労しました。『仕事とは客先に喜ばれること』を念頭に、幾つになっても学ぶ事の大切さや有難さを感じつつ、就業しています。私にとってシルバーとは最後の砦だと思います。人生の想い出は、銀行勤務時代にATMコーナーの解除を忘れて仕事をし、帰ろうとした時に、パトカーと機動隊にとり囲まれ、腰を抜かしそうになった事です。

皆様の健康とご多幸と
心よりお祈り申し上げます



千支座談会を終えて



石井事務局長

午年生まれの会員の皆さまは116名いらっしゃいます。本日参加いただきました14名の皆さま誠にありがとうございます。お一人、お一人のシルバーでの経験談をお伺いしてみなさんが四日市市シルバーでいきいきと活躍されていることに感動しました。入会当初は、様々な困難もあったと存じますが、長い間当センターを盛り上げていただき感謝申し上げます。